

## ①研究テーマ設定に係わって

### ○ 通学高等部の教育

- ・軽度知的障害生徒の職業自立を目指し、自ら働く意欲を育てる指導を推進
- ・昭和63年開設から卒業生の90%が企業就労を果たし、高い定着率を確保



### ○ 社会構造や生徒の障害実態の変化に対応する指導システムを再構築

- ・職業自立に必要な能力を育成する指導内容として新たな教科に再編
- ・自閉症等の障害を併せ有する生徒の社会自立と移行支援のための教育課程を編成

## ②教育課程改編の基本的な考え方

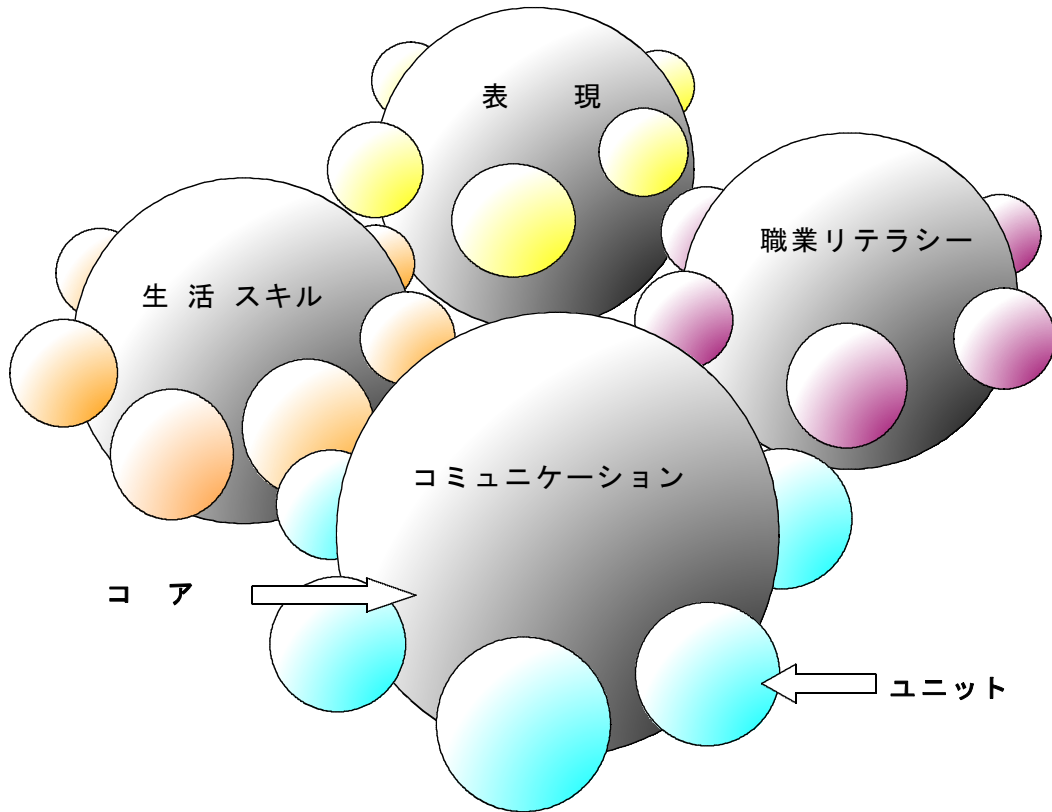
### ○ 教科を単に合科するだけではなく、就労能力の育成をめざす学びの構造を構築

- ・教科という単体の学習構造を重視するのではなく、社会自立を可能にする人間の総体総合的な成長を促す学習構造を構築
- ・学習内容をいったん教科という縛りから解き放ち、関連する内容で組み直し、学習ユニットとして再編
- ・自立を支える基本的な能力の固まりをコアとして位置付けしながら相互に影響を受け、総合的な知として獲得させることをイメージ

## ③教育課程（コアの目標と内容）の構想

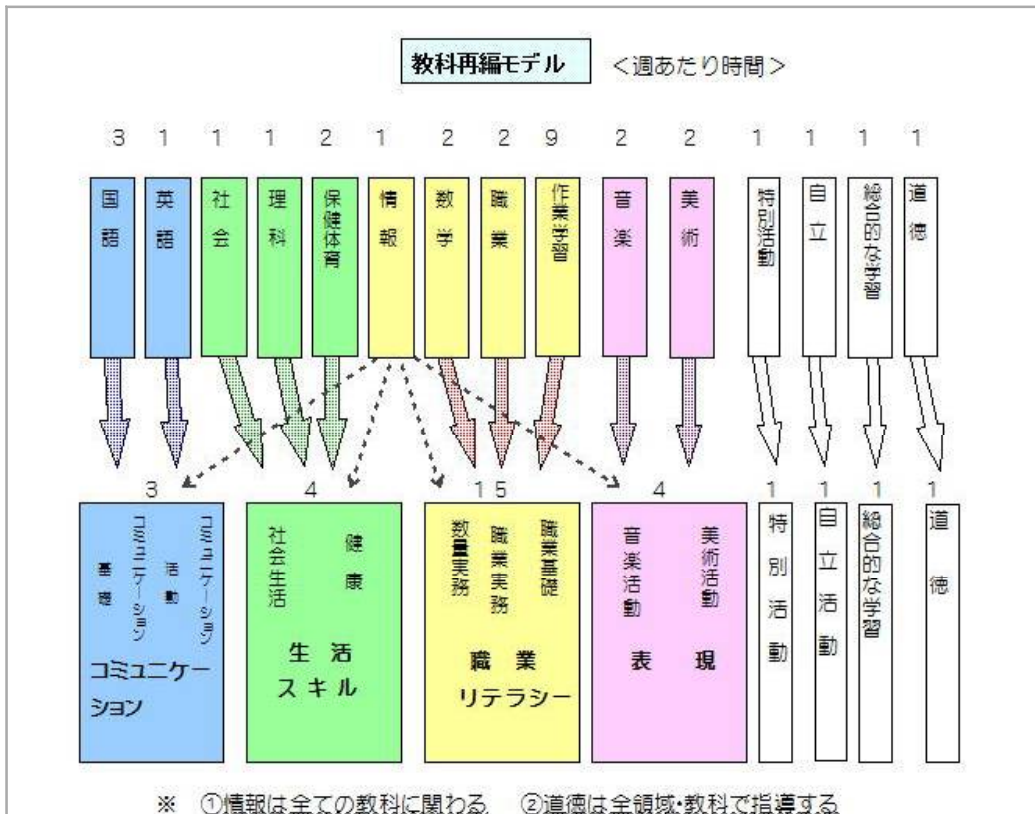
| コア         | 目標  | 内容   |
|------------|---|--|
| ①コミュニケーション | ・言語活動全般の力を伸ばさせる。                                  | ・自己表明能力の開発（プレゼンテーション）<br>・基礎知識の定着（漢字・語句の意味）<br>・日常生活における英語の学習等 |
| ②生活スキル     | ・社会生活に必要な基礎知識を具体的に学ばせる。                           | ・福祉制度の理解、公的機関の利用など、社会人としての基礎知識や自己を取り巻く環境についての理解を深める。           |
| ③職業リテラシー   | ・就労に必要な基礎的能力を身に付ける。                               | ・計量器を使った袋詰め学習、ポスシステムを使用したレジ体験、作業学習等                            |
| ④表現        | ・芸術に親しみ、自己表現の楽しみを学ぶとともに、卒業後の余暇の充実につながる文化的な力を身に付ける | ・器楽合奏や合唱による自己表現、平面や立体表現の体験、各種文化的イベントの鑑賞等                       |

<イメージ図>



4つのコアを中心にいくつかのユニットを構成し、相互に関連しながらコア自体の拡大を目指す。この4つをバランス良く育成することで就労能力の向上が図れる。

<教科再編モデル 1年生>



#### ④研究計画・評価計画

|                  |      |   |
|------------------|------|---|
| 第一年次<br>(平成22年度) | 研究計画 | ・各教科の指導内容の具体化と系統性の研究及び指導法の研究            |
|                  | 評価計画 | ・指導内容関連表の作成<br>・新入生に対する実態調査、第一年次報告集の作成  |
| 第二年次<br>(平成23年度) | 研究計画 | ・実施内容の検証と指導内容関連表の完成、指導法の実践的研究及び中間報告会の実施 |
|                  | 評価計画 | ・中間報告集の作成、実態調査                          |
| 第三年次<br>(平成24年度) | 研究計画 | ・研究の成果のまとめ、研究発表会の実施                     |
|                  | 評価計画 | ・最終報告集の作成、実態調査                          |

#### ⑤取組方法及び評価方法

##### ○方法

- ・本校において作成した「職業生活に求められる必要事項」の検討を行い、具体的な指導内容の整理
- ・新しい教科の指導内容の系統表を作成し、具体的実践で検証
- ・平成22年度入学生に対してソーシャルスキルの実態調査を実施し基礎資料を作成

##### ○評価方法

- ・指導内容関連表の作成により、指導内容の系統性を具体的に検証
- ・ソーシャルスキル実態調査項目を検討し実施することにより、生徒の実態を把握
- ・個別の指導計画及び個別の教育支援計画に基づいた検証